

**【報告】 支援サービス提供につながりにくい方への支援体制構築、事業所間の  
連携支援による支援チーム構築と地域での人材育成について  
(いずみケーススタディ交流会)**

**【実施日】** 毎月第4火曜日 13:30～15:30 (4月より、6回開催)

**【参加事業所 サービス種別】**

就労継続支援B型、就労移行、生活介護、居宅介護、共同生活援助、短期入所、施設入所、放課後等デイサービス、児童発達支援、計画相談、訪問看護  
(毎回事務局合わせて、20名前後)

**【開催の目的】**

支援者が現場で直面している課題の解消や軽減に向け、事業所同士が相互に相談や協力出来る体制(プラットフォーム)を構築し、抱込みや孤立化を防ぐとともに、知識や技術の向上といった研鑽や人的交流を行い、支援者としての成熟度の向上や支援へのやりがいを醸成し、長期的に福祉人材を確保していくことで、和泉市全体の支援体制の充実につなげる。

**【内容】**

- ・対応に苦慮しているケースや事業所の運営に関すること(利用者との契約、人材育成等)について、意見交換や情報交換を行う。  
相談例：こだわりが強い方への支援  
深夜不安増長により攻撃的になる方への長時間対応や未然予防  
事業所間連携・方向性のすり合わせ方、職員間の情報共有方法 等
- ・前回相談された事例の経過を共有。
- ・各事業所の近況や取組み、社会資源について情報交換。

**【効果】**

参加者の感想より

- ・サービス種や支援対象(児・者)が異なる人から、自身では気付きにくい視点で様々な意見が得られ、支援を見つめ直したり、学びの機会となっている。また、児童期、成人期といった各ライフステージの連動を意識した支援を考える必要性を認識出来た。
- ・支援の正解が出なくても、「同じ悩みを共有出来る」ことが孤立防止につながっている。自身の支援への迷いを解消したり、自信を持つことが出来た。

- ・課題感や悩みの共有だけでなく、解決するための協議検討が出来たら。いずれは地域資源の改善や開発に向けても協議出来れば良い。
- ・他事業所や他サービス種別の人とのつながりができ、それにより事業所同士協力して新たな取組みを検討出来そう。(研修会企画、人材交流、事業所見学等)

#### 進行の一部を参加者が担う座長制について

- ・参加者がそれぞれの意見や思いを話し、良い雰囲気の中で進行が出来た。とても良い機会をいただいた。
- ・自分の意見を伝えること、意見をまとめること、スムーズなファシリテーションを行うこと等、適度な緊張感があり、楽しかった。参加者から意見をもらおうとすることで、自身の各事業所・参加者への関心度が高くなり、良かったと感じている。

#### **【今後の方向性】**

9月実施した際に、上半期の振り返りを行い、参加者間で意見交換した運営方法に関すること(テーマ選定や事前共有方法、改善点)や、新たに取組みたいことを反映し、事業所にとってより有意義な会にしていくことで、事業所が主体的に運営に携わることが出来るよう、基幹相談支援センターが後方支援を行っていく。

(報告は今回で終了)